

学校教育目標	確かな学力と豊かな心を身に付けた、健康でたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の工夫改善により、主体的に学ぶ態度を高め、確かな学力を身に付けた子どもの育成 ・自尊感情や道徳性を養う活動の充実により、豊かな心を身に付けた子どもの育成 ・健全な生活づくりと体力づくりに取り組み、健康でたくましい子どもの育成・小中一貫教育の推進・働き方改革の推進

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 国語:「書くこと」、「意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる力」 算数:「割合」「目的にあった数の処理の仕方」、「自分の考えを説明する力」 理科:「昆虫の体のつくり」、「実験経過や結果を科学的に説明する力」 *「書く力」、「考えを筋道立ててまとめ、説明する力」が共通している。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・該当学年の基礎基本的な指導内容の確実な定着が不十分。 ・記述式の問題での無解答率がどの教科でも約10%と高い。 ・自分の考えを友だちが納得するまで提案する児童の割合が44.2%、読書が好きと答えた児童の割合が62.8%と少ない。(児童質問紙より)
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・授業の板書プレート(「めあて」「課題」「まとめ」「ふり返り」)を毎時間使用し、板書の構造化を図り、分かりやすい授業づくりに努める。教職員は93%(1学期教職員アンケート)で、全校共通「授業が分かった」と答えた児童が91%、授業中、自分の考えがもてたと答えた児童が87%(1学期児童アンケート)であった。 ・自分の考えをペア等で伝えていると答えた児童は89%、授業中、ペア等で話し合うことは役に立ったと答えた児童が85%だった。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・伝え合いによる思いやりと向上心のある児童・生徒の育成を目指した授業づくり(植田南中校区 小中一貫教育共通)で、思考を促す発問提示やねらいに迫る課題の工夫、多面的・多角的な話し合いを行い、検証していく。 ・各種学力調査の分析結果から明らかになった課題を解決する取組を学年で決めて、2学期から実践し、学期末に振り返り、3学期につなげる。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学習規律の徹底(特に、植田南中校区 小中一貫教育共通の取組:授業前後の挨拶、授業準備、話の聞き方等)のため、学習ガイドを教室に提示し、学期末に振り返り、次につなげる。 ・指導体制の工夫(習熟度別学習、個別指導、全学年のローテーション・道徳等)、ICTの活用、学年間での教材研究を行っている。 ・家庭学習の習慣化については、学級懇談等で重要性を伝え、92%の保護者(1学期末保護者アンケート)が声をかけてくれている。	

学力に関する達成指標

- 単元末テスト(国語・算数)で、児童の個人平均点を80%以上にする。
- 全国学力状況調査、大分県学力状況調査において、校内平均正答率が目標値を超える。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ)伝え合いによる思いやりと向上心のある児童の育成を目指した授業 (授業改善の重点)○思考を促す発問提示 ○ねらいに迫る課題の工夫 ○多面的・多角的な話し合い 各学年の取組 ○国語:書く力 ○算数:説明力 ○理科:科学的に説明する力	〈家庭・地域の取組内容〉 ・担任は、児童や保護者に、家庭学習の重要性・習慣化を、担任からの話や学級懇談、通信等で伝えていく。 ・保護者に、家庭学習の認めを6年間お願いする
	〈取組内容〉 ・めあて・課題・まとめ・振り返りの板書プレートを毎時間使用し、板書の構造化を図り、分かりやすい授業づくりに努める。 ・生徒指導の3機能を意識し、児童が自分の考えを説明できる授業を計画する。 ・ICTを活用し、主体的な学びのある授業で、児童が考えをもつ児童の育成に努める。 ・各種学力調査の分析結果から明らかになった課題を解決する取組を学年で決める。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・担任は、「学習ガイド」をもとに、児童に家庭学習をするよう毎日声をかける。 ・担任は、家庭学習の内容を工夫して習慣化を図り、提出できていない保護者に個別に連絡し、協力をあおぎ、提出率を100%にする。
	〈取組指標〉 ・板書の構造化を図り、板書プレートを毎時間1枚以上使う。 ・生徒指導の3機能を意識し、考えを伝え合うペアや説明する活動を1日1回以上行う。 ・ICTを効果的に活用し、主体的な学びのある授業を行うことにより、児童が自分の考えを説明できるようなキーワードを提示し、説明の時に使わせる。 ・各種学力調査の分析結果の課題を解決する取組を学年で決め、100%実践する。 ・国語・算数の単元テストの前にプレテストの実施し、記述問題も設定する。	〈家庭・地域の検証指標〉 ・「子どもに宿題をするよう毎日声をかけている」、「自分の子どもは、宿題を忘れずにしている」と答える保護者を100%にする。
	〈検証指標〉 ・授業の板書プレートを毎時間使用し、分かりやすい授業づくりに努めたと答える教職員の割合を100%にする。 ・授業が分かった、自分の考えがもてた、自分の考えをペア等で伝えている、ペア等で話し合うことは役に立ったと答える児童を、80%以上にする。 ・各種学力調査の分析結果の課題を解決する取組を学期末に評価し、各学年の肯定的回答の割合を80%以上にする。 ・単元末テスト(国語・算数)で、児童の個人平均点を80%以上にする。	
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○植田南中校区共通の「学習ガイド」・「生活ガイド」を活用し、学習規律を徹底し、指導に活かす。 ○基礎基本が定着していない児童や家庭学習が定着していない児童には、個別に指導し補充を行う。 ○読書指導で、児童の読書活動を充実させ、各学年が設定した目標冊数を達成させる。		